

「教職課程年報第 13 号」の発刊に寄せて

教職支援センター長
前田 研史

今年度は、教職課程の再課程認定を受けるために、多くの先生方のご協力をいただきながら作業を進めてきました。この年報が発刊されるころには、最終結果が届いているのではないかと思います。再課程認定を受けるために行った作業は、あらためて自分たちの教職教育の課程について見直してみる貴重な機会となりました。再課程認定を受けたから大丈夫と安心してしまおうのではなく、今後も、教職を目指す学生のためにより効果的な教育体制を整えていけるように、常に見直して改善に努めていく必要があります。

このことと関連していることですが、「教職課程コアカリキュラム作成の背景と考え方」では、「教員養成の基幹部分をなしている教職課程は原則として大学における教育研究の一環として学芸の成果を基盤に営まれることになっている。同時に、教員は教職に就いたその日から、学校という公的組織の一員として実践的任務に当たることとなるため、教職課程には実践性が求められている。このため教職課程は常にこの二つの側面を融合することで高い水準の教員を養成することが求められてきた。」と述べられています。このように、教員養成においては、学術研究の成果を十分に踏まえた専門的知識を豊かに備えていくことと同時に、教育現場において実効性のある教育活動を行うことのできる資質を育てていくことが求められます。教職課程を有する大学として、この二側面が効果的に連環しているのかを常に検証していくよう努めていかなければなりません。そのために、これからも教職支援センターを軸にしながら教職課程のある各学科および教員と職員とが連携し、一層の充実を図っていきます。

ところで、今年も多くの学生の皆さんが教員採用試験に合格し、新年度から各地の教壇に立つこととなりました。教員として幼児・児童・生徒たちと共に歩んでいきたいという思いがいよいよ実現するわけです。皆さんは教員として、多くの経験をこれから積み重ねていくことになるのですが、たとえどれだけ経験を積んだとしても、常に専門的知識を深め、同時に実践的資質を一層豊かにする努力を要するのが教員という仕事ではないかと思います。神戸女子大学は、これからも皆さんを応援し続けていきます。どうぞ母校での学びを存分に生かし、子どもたちの未来のために頑張ってください。